

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立塩田中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>① 心の教育の推進:生徒指導、いじめ防止対策、特別支援教育の充実については、情報共有を図りながら、全職員で同じ方向性を持ち取り組むことができ、一定の成果を得ることがた。道徳教育の充実については、校内研究と連携し、各学年ごとに発達段階に配慮した授業展開を全職員で考えることできた。</p> <p>② 学力の向上と定着:全教科においてICT機器を積極的に活用し、情報教育コーディネーターを中心に職員の活用意識の向上につながった。対話的学びは、コロナ禍の影響で十分ではなかったため、コロナ禍での方策を考える必要がある。単元テストについても有効性と改善点を洗い出し、次年度への取組につなげていく。</p> <p>③ 「生きる力」育成:健康・体づくりはじめ、感染症やSNS、スマホ等の通信機器への対応も課題である。</p> <p>④ 地域とともにある学校づくり:職場体験や授業参観など、行事の一部が中止、延期、規模縮小となり、十分な活動ができなかった。次年度も継続して生徒や職員が積極的に地域に根ざしていける取組を考えていく。</p>

2 学校教育目標	「心豊かに ともに 伸びる」
----------	----------------

3 本年度の重点目標	<p>① 不登校対策の拡充 ② 学力の向上</p> <p>③ 心の教育の推進 ④ 地域とともにある学校づくりの推進</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標			中間評価	5 最終評価			主な担当者				
(1)共通評価項目											
重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	中間評価		最終評価			学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合を80%以上にする。	・校内研究における会議時に、個々のプランについての進捗状況を報告する機会を設け、取組の改善に必要な対策等を各職員で考え、学力向上にむけての取組の促進を図る。	B	・校内研究において、個々のマイプランについての報告を教科部会で行った。また、単元テストや実力テスト、全国学力状況調査の結果をもとに、各教科で分析を行い、学力向上に向けた取組内容の見直しや修正を行った。	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標について、98%の職員が『おおむね達成』できた。また、校内研究において、県学力状況調査や単元テスト、実力テストの結果をもとに分析を行い、来年度の取り組みについて共通理解を図った。	B	・見直しや修正で、目標を上回る98%達成は大きな成果である。 ・先生方は指導力向上に努めており、成果指標で職員が98%ならAでもよいのではないか。 ・学力の実態をどう分析し、どんな課題がありそれに向けて、どのような対策、実践をされているのかを知りたい。	・学力向上対策 コーディネーター ・研究主任	
	○ICTを活用した授業の実践	・ICT機器を活用したことで授業がより分かりやすくなった」と感じる生徒の割合を70%以上にする。	・タブレット端末を活用した授業を、年間各自5回以上実践する。 ・ICT機器の利活用調査を行う。(3月) ・ICT利活用についての研修会を年2回以上行う。	・わたしはパソコンや電子黒板などを使用した授業がわかりやすいという質問で、よくあてはまる、だいたいあてはまると回答した生徒の割合が92.7%ということから、「ICT機器を活用したことで授業がより分かりやすくなった」と感じる生徒の割合の目標を超えることができている。 ・ICT利活用に関する研修会を3回予定し、2回実施することができた。	A	・『わたしはパソコンや電子黒板などを使用した授業がわかりやすい』という質問で、肯定的な回答をした生徒の割合が96%であった。また、中間評価よりも割合が増えていることから、授業での実践が十分にできていると考えられる。 ・タブレット端末で活用できるドリルの紹介などを中心に外部から講師を招いて研修会を実施することができた。また、授業研究会等においてもICT機器の効果的な活用について話し合うことができた。	A	・分かりやすい授業の成果指標が70%以上は、授業改善方策として適切である。 ・ICT利活用の教職員のアンケートの平均は減少しているが、生徒、保護者の平均は増加している。生徒からも授業が楽しい、分かりやすいというコメントがあり全体としてAであると思われる。 ・機器活用の成果は見られるが、コミュニケーション能力の低下に配慮を。	A	・情報教育 コーディネーター	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、学んだことを生活の中で実践していると答えた生徒の割合を70%以上にする。	・人権集会や人権放送の実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修の実施。 ・道徳科に関するアンケートの実施。 ・道徳や人権に関する授業について、学級便りなどで知らせる。	B	『道徳で学んだことを、実際の生活で実践している』という質問に、よくあてはまる・だいたいあてはまると答えた生徒が74%と目標を超えることができている。しかし、あてはまらないと答えた生徒もいたため、自分のこととして考えることができる授業内容を考えていく必要がある。	A	『道徳で学んだことを、実際の生活で実践している』という質問に、肯定的な回答をした生徒が75.8%になり、目標を超えることができた。また、「学校は道徳教育の充実を図っている」と回答した保護者が86%であったことから、十分な成果を上げていると考える。	A	「心と体のアンケート」は素晴らしい取組であり、効果的な指導をしていただき、個に応じたきめ細やかな対応につながっている。 ・先生方の道徳の指導は2.8であるが、生徒の実際の生活に役立っているとか、保護者の道徳教育への意見をみても、評価としてはAであると思われる。 ・人権教育・道徳の授業について、学校だより等で地域・保護者への啓発を。	A	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめに関して、早期発見、早期対応を組織的に行っていると感じる教員の割合を90%以上にする。	・生徒の様子や生活と学習の記録から、問題の早期発見に努める。 ・教育相談やQ-Uテストを活用して早期発見、早期対応を図る。 ・SCと連携を図り、構造的エンカウンター等の授業を実施する。 ・生活アンケートの結果を全職員で共有する。	A	『いじめに関して早期発見、早期対応を組織的に行っている』と感じる教員は、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」をあわせると100%となっている。 ・Q-Uテストの分析を行い、その結果を踏まえて教育相談やSCとの連携を図り支援を行っている。 ・構造的エンカウンター等の授業を取り入れ、より良い学級での人間関係作りにつなげている。 ・生活アンケートの結果を生徒指導部会等で、全職員で共有している。	A	『いじめに関して早期発見、早期対応を組織的に行っている』と感じる教員は、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」をあわせると100%となっている。 ・Q-Uテストの分析を各学年で行い、その結果を生徒指導全体で全職員で情報共有をしたうえで、教育相談やSCとの連携を図り、支援につなげることができた。 ・生活アンケートの気になる書き込みについて生徒指導全体で情報共有をし、学年を中心に早期対応につなげることができた。	A	いじめ防止の取組を全職員で進めていることが分かった。生徒のことについて、見えにくい問題についても全職員で共有する場を持たれているのがよいと思います。 ・先生方の早期発見・対応の指標はAであり、日頃から組織的な対応の取組がなされているように思う。 ・事例を先生方で共有して、全校で取り組んでいただきたいと思います。	A	・生徒指導主事 ・各学年主任
	◎自己肯定感、自己有用感を育み、自らの将来を主体的に創造するための教育活動	◎自己肯定感、自己有用感を感じる生徒の割合を80%以上にする。 (心と体のアンケートより「将来に希望が持たない。」「自分のことが好きになれない。」「2項目から成果をみる」)	・生徒会活動や係活動、1分間スピーチでの人前で発言や活動する場を設ける。 ・生徒の学校生活の場において、役割を与え、朝の会や帰りの会などで個人を評価する場を設けて自己有用感を高める。	・8月の心と体のアンケートより、『将来に希望が持たない。』で83%、『自分のことが好きになれない。』で85%の生徒がプラス面の回答をしている。 ・一人一人に、役割を与えたり、発表する場を与えるなどの取り組みを続け、今後も、自己肯定感・有用感を高めさせたい。文化発表会などの行事なども活躍の場を与える。	B	最新の心と体のアンケートでは、8月の割合よりわずかに下がっているが、『将来に希望が持たない。』で82%、『自分のことが好きになれない。』で83%の生徒がプラス面の回答をしている。 ・授業での活動、学級や行事での役割を充実させ、活躍の場を与えることで自己有用感につながった。20%近くはマイナス面の回答をしているので、機会あるごとに生徒の話を聞き、個を大切にすることを保つ必要がある。	B	・あらゆる場面で、自己表現できる子供に育てることも学校教育に課されているのではないかと。 ・生徒の将来への希望や自分を好きであることは80%台であり、Aに近いと思う。 ・アンケートの質問項目を肯定的な文言に変えてみてはどうか。	B	・授業の実践により教育の成果がみられ、健康への意識の高揚がみられる。朝食の喫食率を見ても、家庭がしっかり取り組んでいる表れであり、地域の力を感ずす。 ・きちんと朝食をとり、規則正しい生活をしている生徒が多く、保護者も高評価である。評価はで妥当と思われる。 ・心身ともに健康でバランスの取れた生徒の育成には、全職員の共通理解をもって取り組んでほしい。 ・朝食が取れていない生徒へも面談等で対応を。	B
●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と肯定的に考える生徒の割合を93%以上にする。 ●毎日、朝食をとっている生徒の割合を80%以上にする。	・食事の役割を理解し、バランスの取れた食事がとれるように、保健だよりなどで、保護者に啓発活動を行う。 ・生徒会活動を通して、朝食の大切さや食事についての新聞発行を行い、生徒自らの健康への意識を高めさせる。	A	生活習慣チェック表で「朝ごはんを食べた」というアンケートを一週間とったところ、およそ90%の生徒が「一週間毎日食べた」と回答した。このことから、朝食は大切であると考えている生徒は多いと捉える。また、3年生に向けて、食生活について学校栄養職員と家庭科職員とで授業を行った。	A	『健康に食事は大切である』と肯定的な回答をしている生徒が96%以上、『毎日、朝食をとっている』と回答した生徒が90%以上と目標を達成することができた。また、授業でも食生活について考えることができたので自分自身の健康への意識が高まっていると感じる。	A	・授業の実践により教育の成果がみられ、健康への意識の高揚がみられる。朝食の喫食率を見ても、家庭がしっかり取り組んでいる表れであり、地域の力を感ずす。 ・きちんと朝食をとり、規則正しい生活をしている生徒が多く、保護者も高評価である。評価はで妥当と思われる。 ・心身ともに健康でバランスの取れた生徒の育成には、全職員の共通理解をもって取り組んでほしい。 ・朝食が取れていない生徒へも面談等で対応を。	A	保健主事 栄養教諭 学校栄養職員 食育推進担当者	
●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる毎月の時間外在校等時間の上限を遵守する教職員の割合を80%以上にする。	・学校行事の精選および業務の見直し。 ・部活動に係る活動方針を遵守する。 ・毎月第1月曜日、第3水曜日の定時退勤日の完全実施に取り組む。 ・年間の年次休暇取得10日を目指す。	B	職員会議の2ヶ月に1回の実施や単元テストへの移行で、業務時間の確保につながった。 ・毎週水曜日を部活動休止日とした。 ・定時退勤は推奨しているが、完全実施にまでは至っていない。 ・8月までの年休取得の平均は8.8日であった。	B	・学校行事が規模を縮小しながらも再開され、さらに感染予防対策の継続もあり、職員の業務が増加した。 ・部活動休止日は年間を通して、週2日をおおむね遵守することができた。 ・超過勤務時間については、12月までの平均で管理職、教職員ともに45時間を下回る状況であった。 ・12月までの年休取得の平均は14日であった。	B	・部活動休止日や年休所得等、メリハリのある業務がなされている。コロナ対策、行事等の復活の中、努力されていると思います。 ・部活動の休日、超過勤務時間、年休取得の状況を見ても評価はAでもよいように思う。 ・学校行事、部活動、授業、退勤時間、年休取得など改善は見られるが、今後に待たれるところが多く残されている。校務は多種多様にあるため、業務の効率化と時間外勤務の削減は学校が抱える大きな課題である。部活動の面で先生方の休日の確保をお願いしたい。	A	管理職	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○通常学級における、授業のUD化の推進	○UDを意識した授業づくり、及びワークシート作りをした教職員が80%以上。	・夏休みに、授業のUD化に関する校内研修会を実施する。 ・長期休業前に、授業のUD化に関する実態調査を全教職員に実施する。	B	・授業のUD化としては十分ではなかったが、校内研修を実施することができた。 ・6月に授業のUD化に関わるアンケートを実施し、全職員に結果を提示することができた。1月くらいをめどに、再度実態調査をし、その後の変化をたしかめる予定。	B	・本校職員のUD意識は基本的に高く、UDを取り入れた授業実施の割合は、1月調査が6月調査よりも若干増加した。これは、夏季休業中に実施した校内研修の効果として、もともと意識の高かったUDの必要性が明確になったことが要因ではないかと考えられる。	B	・具体的に授業中のUD化として取組まれていることを知りたい。 ・先生方の特別支援への対応の割合が低下しているのではと思われる。 ・調査結果の考察の「若干」がどれくらいなのか、数値化できれば評価がしやすい。ケース会議を開くなど、個に応じた支援の在り方を探る必要がある。	・特別支援教育 コーディネーター ・特別支援教育担当者
○不登校対策の拡充	○多様なスタッフと協働しながら早期対応を図り、不登校の未然防止、教室復帰への支援の充実	・心と体のアンケートについて、前月との比較3%増の生徒5人未満。 ・Q-Uテスト「要支援群」に入る生徒数を9人未満。 ・学校に全く登校しない生徒数を3人未満。	・年に2回、教育相談週間を設定する。 ・毎月「心と体のアンケート」を取り、不登校の未然防止を目指す。 ・年に2回Q-Uテストを実施、分析する ・定期的に教育相談部会を開く ・養護、すずらん、あさがお、SC、SSW、相談員との情報交換。	B	・教育相談週間を設定し、その後、気になる生徒については学年スタッフで情報を共有した。必要に応じて学年全体で情報共有をした。 ・Q-Uテストについては、9月14日に校内で情報共有を行う予定である。 ・毎月の教育相談部会(会食)では、市教委の宮崎先生にも参加いただきアドバイスをもらうことができている。 ・別室登校、不登校(傾向)生徒については、関係職員が連携を取りながら対応しており、3年生については全員修学旅行に参加することができた。	B	・心と体のアンケートを取ることで、カウンセラーや相談員と生徒をつなげることができ、不登校の未然防止につながりつつあると思われる。 ・2回目のQ-Uテストで「要支援群」に入る生徒は3名(1年生2名、2年生1名)であった。「要支援群」の生徒への対応としては、担任と教科担任が連携して支援を行っている。 ・教育相談部会は定期的に行うことができているが、情報共有にとどまっている。今後は、不登校対応の具体策を提案できる場にしていきたい。 ・完全不登校の生徒数は増えているため、教育相談担当を中心にSSWや相談員を活用しながら、新年度に向けた対策を考える必要がある。	B	・教育相談週間の設定やQ-Uテストの実施等に取組まれている。タブレットのアンケートにより日頃見えなかった生徒の困り感が見えてきたことは成果としてあげられる。様々な取り組みから子どもの気持ちと教師の見取りを重ね合わせ、細やかな対応がなされている。 ・具体的な手立てや対策を考える必要がある。 ・不登校生徒の増加は、学校が抱える大きな課題である。実態把握と改善をお願いしたい。学校が少しでも生徒の居場所と感じられる学校づくりを。	・通級指導教育担当者 ・教育相談担当者 ・養護教諭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>① 不登校対策の拡充:本年度、子どもたちの内面を数値で示し可視化する新しい試みとして、「心と体のアンケート」を実施した。これを客観的な指標として教育相談の時間を使って悩みを聞いたり、必要な場合はスクールカウンセラーに繋げたりといった対応をとることができた。</p> <p>② 学力の向上:英語、数学におけるTT(1年)や少人数学級指導(2年)の実施により、生徒一人一人に対して、丁寧な観察を行うことができたため、理解度や到達度を把握し、段階に応じた声掛けと指導を行うことができた。次年度に向けて、タブレット端末を用いた授業の展開、評価のあり方についても改善していく必要がある。また、主体的な学びや協働的な学びに繋がる課題設定や授業展開等の授業改善も必要であると考えます。</p> <p>③ 心の教育の推進:特別な教科道徳では、各学年で年間計画を作成し、校内研究でも研究授業、授業研究会に取組み、全ての教員が授業を担当するなど実践の充実を図ることができた。また、生徒指導部会、教育相談部会、いじめ防止対策委員会、特別支援教育の校内研修での取り組みなど、全職員で共通理解、情報共有を図りながら、次年度は、さらに生徒の自己肯定感、自己有用感を育む教育活動に取り組んでいく。</p> <p>④ 地域とともにある学校作り:本年度は、コロナ禍の中で規模を縮小しながらも徐々に学校行事が再開され、体験活動等は充実をしつつある。しかし、職場体験など実施に向けて課題が残る行事もあり、次年度に向けて実施時期、内容に配慮をし、学校、家庭、地域が連携をしながら、生徒の成長にかかわっていきける取組を考えていく必要がある。</p>
----------------------------	--